

# からはーい

## ご挨拶

2013年は如何お過ごしでしょうか？新年のフレッシュな気分で日々を楽しんでいらっしゃることでしょう。私は 沖縄でこの希望豊かな年を迎えたことを光栄に思っており、良い年となりますように、皆様と共に努力致します。

いろいろな国でお正月を過ごした経験がありますが、一つ思い出に残るのは、アラブ首長国連邦(アブダビ)で朝早く、かなり遠い山に出かけて、家族で初日の出を楽しんだ時の事でした。とんでもない時間帯に誰もいない山上に着き、その素晴らしい風景を眺めていたら、もう一組のグループが近くまできました。やはり日本人でした。初日の出を目当てに早朝に出かけるのは、日本文化の影響でしょう。私は、自分自身が人生の教育の一環として日本の文化と出会って、非常に良かったと思っています。我々の教育は、正に、人生そのものです。

教育を考えますと、自分の文化だけではなく、様々な考え方や風習に出会うことこそ、知恵を蓄える方法でしょう。私にとって教育とは毎日積み重ねた経験そのものです。当たり前と思われてきた概念を突破し、聞き慣れた観点にこだわらず、他人のアイデアや知識を自分のものにするのが教育の楽しみです。自分を越えることです。日本文化から学ぶものは多く、私の外交活動にいい影響を及ぼしています。

私が卒業したブリガムヤング大学(Brigham Young University)のキャンパスに入ると、看板にこう書かれてあります：The World is Our Campus. 「校内は世界なり」、若しくは「教室は世界中にある」と言う意味です。学ぶ事を学校に限定する必要はありません。

今回の「からはーい」は、教育について考える機会を我々に与えてくれれば良いと思っています。最近、自宅で教育関係者を数十名呼び寄せて、立食懇談会を開きました。学校の方々もいれば、社会人の訓練や留学の斡旋をする方も来られました。様々な観点から見ると教育とは如何に重要な社会的役割を果たすかを考えるための良い機会でした。これからも、皆様と交流し、教育や人材育成を考えたいと思います。そして、留学を考えるなら、異文化を探索することによって、自分の文化を知ること考えましょう。

では、挨拶をそのぐらいいたしまして、教育俳句に挑戦してみました。是非、皆様の俳句も書いて読ませてください。

海渡り・他国体験・自国知る  
身に付ける・洋服のような・英語力  
視野広げ・言葉の壁さ・怖くない  
世を歩き・全人類が・受験生  
卒業書・経験抜きで・紙切れや

YouTubeビデオ：「総領事公邸へようこそ」

<http://youtu.be/RlfnMBXGwFE>



マグルビー総領事

### 目次:

<a href="#">ご挨拶</a>	1
<a href="#">留学は就活に不利？</a>	2
<a href="#">沖縄県の提供する米留プログラム</a>	3-4
<a href="#">EducationUSA</a>	5
<a href="#">ビザ</a>	5-6
<a href="#">アメリカ世(ゆー)に於ける人材育成と国際交流推進 - その1-</a>	7-8
<a href="#">スコア! サイエンスinオキナワ2013: 起業のための研究能力</a>	8
<a href="#">領事館からのおしらせ</a>	9

## 留学は就活に不利？

海外留学は就職戦線に不利だというイメージがありますが、本当にそうでしょうか？確かに入学・卒業時期の違いによって、若干の不利益があるかもしれません。しかし、海外留学によって得た語学力、ディベート等でのコミュニケーション能力や異文化へ対応できる多様性を身につけることは、グローバル化の進む経済社会の中で、まさに必要とされている能力なのです。



最近、よく「少子高齢化」とか「日本の国力低下」という言葉をよく耳にするとと思いますが、このことが企業活動にどのような影響を与えるか考えてみたことがありますか？特に「少子高齢化」は、日本企業の経済活動に大きな変動をもたらしています。先ずはじめにあげられるのが少子高齢化による人口構造の変化と高齢者の増加による消費需要の減少です。このことは、労働人口の減少と国内市場の縮小を意味します。それは企業にとってもビジネスチャンスが減っていくことを意味し、企業が継続して存続していくためにはグローバル化が必要不可欠になっています。

かつては、生産コストの削減や円高対策のために生産拠点を海外に移すことが多かったのですが、最近では企業の存続と成長のために積極的に海外市場での事業展開に取り組んでいます。例えば、自動車産業は、国内での新車販売台数は2003年の492万台から2010年には421万台に減少しています。一方で国外生産台数は同時期に861万台から1,318万台と増加、特に世界の成長センターであるアジアと中南米での生産・販売が大幅に拡大しています。また、大手家電メーカーも中国や韓国メーカーの台頭とマーケティングの不味さからガラパゴス状態に陥り、海外戦略の大幅な見直しを迫られています。

このような状況の中で、日本企業の採用戦略も大きな転換期を迎えています。ここ数年、日本企業は、組織・人材のグローバル化を急速に進めており、即戦力として外国人留学生の採用を大幅に増加させていますし、海外大学を卒業した日本人学生の採用も増加させています。企業によっては、通年採用や夏季・秋季採用等を実施しています。また、企業がグローバル化することにより、楽天やユニクロのように英語の社内公用語化に取り組んだり、新卒者採用の目安や昇進条件として一定以上の英語力を要求している企業がますます増えています。特に、製造業を中心に流通、サービス業そして金融業にこの傾向が広がっています。

また、企業の中には一般の採用とは別枠で留学経験のあるグローバル型社員の募集を始めた企業もあり、報酬も新卒採用で通常の1.5倍から2倍となっています。高い専門性と海外との業務を円滑に行う高い英語コミュニケーション能力が要求されています。

日本で就活をする外国人留学生も増加しており、日本人学生にとって志望企業の採用枠を競うライバルとなっています。留学経験や語学力、異文化への対応力等、アピールできるスキルを身につけることが以前にも増して重要になっています。幸い、ここ沖縄県では、高校生、大学生、社会人を対象にした県費での長短留学制度や就活中の学生のための海外インターンシップ制度が非常に充実しています。是非グローバルな視野に立ち、キャリアパスとしての学位の取得、そして語学力や国際的なネットワークを兼ね備えた人材となるべく、このような制度を活用して留学を目指して下さい。

[1ページ目に戻る](#)

## 沖縄県の提供する米留プログラム

皆さん、沖縄県はアメリカに留学してみたいという若い方を熱烈応援！、いろいろな機会を提供していることをご存知でしたか？今回は米国留学を強力に推進します広報部より、沖縄県の提供する米留プログラムについてご紹介させていただきます。

まずは高校生の皆様へのビッグチャンス！短期プログラムからご紹介します。これは3週間、ホームステイをしながら大学生活を体験するというもので、派遣先はモンタナ州とテキサス州となっています。今年は計50名の生徒が選抜され2月末から生のアメリカを体験することになります。特筆すべきはその費用。何と渡航費・研修費は全て沖縄県が負担するので、憧れていたアメリカに行ってみたいという方から英語を極めたい、将来はアメリカの大学への進学を考えている、という熱意のある生徒の皆さん全てにチャンスがあるという素晴らしいプログラムです。一次試験は書類選考のみで、二次試験にSLEPと呼ばれる筆記試験と日本語と英語による面接試験があります。先日、今年派遣される50名の高校生のオリエンテーションに参加させて頂く機会があったのですが、英語のレベルも高く、目がキラキラ、未知の体験に心をワクワクさせていて、このような子達がいれば沖縄の国際化も安心だ！ととても頼もしく思いました。高校生をお持ちのご父兄の皆様にはぜひ、この留学プログラムについて知って頂き、外の世界への探究心あふれる生徒が一人でも多く米国へ渡航し見聞を広めるチャンスを得ることが出来ることを願っています。

さて、県が全額を補助する高校生留学プログラムは短期だけではありません。よりディープな異文化体験を通して国際感覚を身につけて欲しいとの願いを込めて、米国を始めとする16カ国へ毎年、約70名の高校生を1年間派遣する長期プログラムがあります。アメリカへは毎年約40名程度が派遣されます。こちらは一次試験が筆記で二

次試験で面接があります。中学からの成績も加味されますので、中学生の早い段階からこの留学プログラム制度を子供たちに知ってもらい勉強へのモチベーションを高めてもらうことも大切かと思えます。

私自身も高校2年生の時に米国へ一年間、留学をしました。高校生のやわらか頭の時に経験した米国での一年は今も私の人生の中で大きな財産となっています。やはり、実際に行ってみますとテレビや映画で見た米国とは良さも悪さも大違い！銃規制が大きな話題となっていますが、一度も銃を見たり持っているという話も聞いたことがない町に住み、人種のるつぼと認識していた米国民ですが、住民は白人だけ…。同じ米国内でも地域によって環境は大きく異なり、全く違った体験をすることが出来るということも発見の一つでした。英語力はたった一年で考えることも全て英語できるようになる等、飛躍的に伸びましたし、慣れない環境の中で文化の違いを感じ、試行錯誤の中で適応力を身に付けていったりと人間的にも成長できたと感じています。

高校生以上の方にも留学プログラムは用意されています。沖縄の大学生、専門学校生、社会人が対象で、期間は6ヶ月課程から2年の修士課程の中から選択することが出来ます。沖縄県の振興に貢献度の高い専門分野を海外で学んできてもらい、帰国後には県の国際施策や国際交流事業に貢献することが求められています。気になる奨学金ですが、行く国や滞在年数によって違います。米国へ一年間、という例でみますと給与として1,959千円、貸与として1,200千円の合計3,159千円が支給されます。

ここでアメリカの大学がなぜお勧めなのか、ということについて少し書かせて頂きます。アメリカの大学の大きな特徴は、その数の多さにあります。日本の大学は4年制・

[続く](#)



短大、高等専門学校を含めて1,224校(平成23年度)ですが、アメリカには4,495校の大学(2009-10年、この数字には、認定制度による認定を受けていない大学も含まれています)が存在します。数の多さに加え、学生や社会のニーズに応じた教育内容の多様性もアメリカにおける大学の特徴のひとつです。その多彩なプログラムと質の高さは世界中から高い評価を得ており、多くの国からの留学生が留学先としてアメリカの大学を選ぶ大きな要因ともなっています。ぜひ、沖縄県の留学プログラムを通じて、米国の大学でグローバルな教育を体感して頂きたいものです。

最後に、「英語立県」を目指している沖縄県教育委員会の強いリーダーシップのもと

で実現しているこの県費留学プログラム。領事館も微力ながらここ数年、毎年奨学金を提供しており、昨年は4万ドルを寄贈させて頂きました。また、国務省でも「人物交流プログラム」のもと、学生の皆様から英語の先生方、社会人を対象に様々な留学や奨学金の機会を提供しています。ご興味のある方はぜひ領事館広報部までお問い合わせ下さい！

★沖縄県留学プログラム <http://www.opsac.jp/index.html>

★国務省人物交流プログラム

#### [フルブライト奨学金](#)

大学院留学及び研究員対象の奨学金

#### [インターナショナル・ビジター・リーダーシップ・プログラム](#)

政治・経済・文化等、各分野のリーダーによる3週間の米国研修

#### [夏期集中講座\(大学教員・学者対象\)](#)

テーマ別に米国・6大学で行われる研修プログラム

(※テーマ:文化・社会／政治／現代アメリカ文学／外交政策／ジャーナリズム／宗教の多元的共存)

#### [夏期集中講座\(中・高等学校教員および教育関係者対象\)](#)

米国の社会・教育・文化への理解を深める研修プログラム

#### [E-Teacherスカラシッププログラム](#)

英語教育者向けのオンライン英語教授法トレーニングコース

#### [アイゼンハワー・フェローシップ](#)

優れたリーダーシップを発揮する個人対象の2ヵ月間の米国研修プログラム(アイゼンハワー財団主催)

#### [イースト・ウェストセンター](#)

イースト・ウェストセンター主催の学生、研究者及び専門家等のための奨学金

[1ページ目に戻る](#)

## EducationUSA



[EducationUSA](#) は、米国国務省・教育文化局 (ECA) がサポートしている世界に400以上のアドバイジングセンターをもつネットワークです。アメリカ留学に関する最新で正確かつ公正な情報やアドバイスを提供しています。沖縄県には、在沖米国総領事館広報文化交流課に[EducationUSA](#)のアドバイザーがいます。留学先となる学校の選び方、学校の認定制度や入学適性試験、奨学金などの情報のほか、よくある質問につ

いての回答をご用意しています。今後、沖縄県内に設置されている「[アメリカ情報コーナー](#)」で留学に役立つ様々な説明会を開催していく予定です。アメリカ留学に関心のある方は、[Eメール](#)での相談を受け付けていますので、ぜひご利用下さい。なお、高校留学情報、ビザ情報、特定の大学の推薦、留学手続き代行や斡旋は提供していません。

[1ページ目に戻る](#)

## ビザ

### 非移民ビザ:

米国は国境の安全と門戸開放を掲げ、米国への訪問者を歓迎します。一時的に米国に渡航する訪問者に適用される非移民ビザの種類は多岐にわたります。米国移民法に基づき、どのビザを取得すべきかは渡米目的やその他の条件により決定されます。非移民ビザは、特定の目的を達成するために特定の期間、米国滞在を希望する観光客、ビジネスマン、学生、または特殊労働者が利用するものです。

一般的に、日本国籍の方など、90日以下の商用または観光目的の際、一定の要求事項を満たしていれば[ビザ免除プログラム](#)により、ビザなしで米国を訪問することができます。但しビザ免除プログラムに基づき渡米するすべての旅行者は、米国へ旅行する前に[電子渡航認証システム \(ESTA\)](#) (<http://esta.cbp.dhs.gov/esta/>) を介して承認を得る必要があります。

### 学生ビザ:

学業を目的として渡米される方は、渡米前に学生ビザの取得が必要となります。学生ビザの申請者は、学校もしくはプログラムへの受け入れを得ていることが必要です。学生を受け入れる教育機関は学生ビザの申請時に提出する必要書類を申請者に交付します。米国は学業を目的として渡米される方を歓迎しており、ビザ申請者に電話やE-Mailなどでご質問にお答えしております。

### ビザの種類:

#### F-1 ビザ

最も一般的な学生ビザです。米国内の認定大学、私立高等学校、認可された英語プログラムなどで教育を受けることを希望する場合は、F-1 ビザが必要です。週18時間以上の授業を受ける場合も F-1 ビザが必要です。

#### M-1 ビザ

米国の機関で非学術的もしくは職業的な教育または研修を受けることを計画されている場合は、M-1 ビザが必要です。

#### 米国の学校を探す学生への支援

米国の教育機関への入学、奨学金、アメリカ大学・大学院説明会等に関する情報は[日米教育委員会](#) (<http://www.fulbright.jp>) で得る事ができます。

[続く](#)

### ビザ申請方法:

ビザの申請はステップ1からステップ5までの簡単な申請方法で行います。ビザ申請者には日本語を話すカスタマー・サービス担当者が電話やE-Mailなどでご質問にお答えしております。

#### **ステップ 1**

非移民ビザ電子申請 (DS-160) フォーム に記入してください。ウェブサイト:<http://www.ustraveldocs.com/jp>

#### **ステップ 2**

ビザ申請 料金をお支払いください。手数料はドルで示されていますが、支払いは円建てとなります。お支払いはPay Easy ATM、Pay Easy対応銀行の口座をお持ちの場合はデビットカード、またはクレジットカードを使用してオンラインで支払うことができます。

#### **ステップ 3**

ウェブページで、面接の予約をしてください。面接を予約するには、3つの情報が必要となります:

- パスポート番号
- ビザ申請料金の支払日 (銀行振込もしくはオンラインでのクレジットカード払い)
- DS-160確認ページの10桁のバーコード番号

#### **ステップ 4**

申請必要書類をお持ちのうえビザ面接日時に領事館で面接をお受け下さい。

#### **ステップ 5**

ビザが許可された後、郵送でパスポート(ビザ)をお送りします。

### 申請必要書類:

Fもしくは M ビザの申請には、下記の提出が必要です。

オンライン申請書DS-160フォーム。 <http://www.ustraveldocs.com/jp>

- パスポート
- 最近撮影した5cmx5cm の正面写真1枚。
- 面接予約の確認のため、面接予約確認書を提出してください。
- 米国の学校から発行されたI-20 及び SEVIS費用を支払済であることを示すI-901。ビザの必要書類および補足書類リスト (<http://www.ustraveldocs.com/jp>をご確認ください)。

### ビザ申請問い合わせ先:

ビザ申請や渡米する為のビザの取得に関するご質問等は、英語あるいは日本語を話すカスタマー・サービス担当者が日本時間、平日9時から午後6時までお電話または無料のEmailにてお答えします。

TEL: 098-854-7050

Email: [support-japan@ustraveldocs.com](mailto:support-japan@ustraveldocs.com)

尚、ビザ申請に関する詳細は米国大使館のウェブサイト<http://japan.usembassy.gov/>でもご確認できます。

[1ページ目に戻る](#)

## アメリカ世(ゆー)に於ける人材育成と国際交流推進 – その1 –

### 琉球大学開学

唐ぬ世(ゆー)から大和ぬ世(ゆー)、大和ぬ世(ゆー)からアメリカ世(ゆー)、そして又大和ぬ世(ゆー)。沖縄はその小さな島嶼の故に、時代の流れに漂いながらその歴史を歩んできた。人材育成・国際交流の歴史もむろん例外ではない。このコーナーでは、戦後1945年から1972年(沖縄の日本復帰)までの米国統治時代、アメリカ世がどのような時代だったのか、人材育成・国際交流に焦点を絞り何編かに分けて迎ってみたい。米国政府は27年間の統治時代に、琉球大学の設立、琉米文化会館並びに琉米親善センターの設立、ガリオア奨学資金制度による米国への留学生派遣等々、教育・文化行政を行ってきた。多くの県民は、その詳細については知らないのではないか。先ず初回は琉大編、琉球大学の設立の背景、経緯について取り上げてみたい。

月22日、米国民政府布令第30号に基づき、米国政府により那覇市首里の首里城跡に「琉球大学」(University of the Ryukyus)が開学した。英語学部、教育学部、社会科学部、理学部、農学部及び応用学芸学部の6学部、562人の学生、44人の教職員で開学し、同日、第1回入学式を挙行了した。

創設の翌年、1951年、第16代アメリカ合衆国大統領アブラハム・リンカーンの誕生日を選んで2月12日開学記念式典を挙行了した。リンカーンにあやかり、琉球大学は戦後の平和な社会建設の礎として「自由と平等・寛容と平和」の理想をかかげて建学の理念とした。

琉球大学の創設・開学にあたり、連合国最高司令官総司令部、ダグラス・マッカーサー最高司令官は、次のような書簡を琉球大学に送っている。(一部抜粋)

“Establishment of the University of the Ryukyus is an event of outstanding importance in the cultural and intellectual history of these islands. It is, moreover, particularly appropriate that the University, founded upon the ancient site of the throne of Ryukyuan kings, should be dedicated on the birthday of one who though personally humble was himself kingly among the great of the world-- Abraham Lincoln.”

「琉球大学の創立は、琉球の文化・精神史上、最も顕著な出来事である。さらにふさわしいことには、由緒ある琉球王朝玉座の地に創設された本学が、自らは謙虚でありながら世界の偉人に列して、王の如き存在であったアブラハム・リンカーンの生誕の日に献じられるということである。」

(参考文献: マッカーサー書簡—琉球大学附属図書館報「びぶりお」、1983)

琉球大学は、他の国立大学法人とは著しく



1950年、首里城跡に建設された琉球大学



1960年代の琉球大学首里キャンパス

### 琉球大学創設

戦前の沖縄県には、大学や高等学校・高等専門学校といった高等教育機関は一つもなく、師範学校・青年師範学校のみが存在した。戦後、1946年、具志川村(現うるま市)に小学校等の教員養成を目的とした沖縄文教学校が開学、又、外国語教育の施設として沖縄外国語学校が開校した。1947年には、六・三制の新制学制を実施、同年に大学設置要求が起きると、米国軍政府教育部は沖縄民政府にたいして、大学の設立を指令した。

連合軍最高司令部の琉球局長ジョン・H・ウェッカリング准将は米国琉球軍政本部教育部長アーサー・E・ミード博士、沖縄民政府文教部長山城篤男氏と共に首里城跡等を視察した。その後、前教育部長スチュアート中佐の計画に基づき、首里城跡地に大学を設立することになった。本館及び普通教室(木造)8棟並びに図書館の建設が着工され、1950年4月25日落成。1950年5

[続く](#)



現在の千原・上原キャンパス

琉球大学は、他の国立大学法人とは著しく異なる歴史を持っています。他の国立大学法人は、旧制度の大学や高等学校等が基になり設立されていますが、琉球大学は全く新しく、1950年、戦後、首里城跡地に6学部の構成で米国政府により設置されました。米国のミシガン州立大学の指導を受け開学し、研究成果を地域に還元し普及させ地域に貢献する大学を目指しました。1966年に琉球政府立となり、1972年に沖縄の本土復帰とともに国立大学となりました。1979年には教育学部、法文学部、理学部、工

学部、農学部及び医学部よりなる総合大学となり、2004年に国立大学法人琉球大学となっています。開学以来「地域へ貢献する大学」であり、「豊かな国際性」を持ち未来へ発展し続ける大学です。

次号につづく

参考文献:

1. マッカーサ書簡—琉球大学附属図書館報「びぶりお」98 Vol-16 No. 4, 1983
2. 琉球大学ホームページ

[1ページ目に戻る](#)

## ～次世代の科学者、技術者、起業家の育成～

**SCORE!**

**Science in Okinawa 2013: Research for Enterprise**

**スコア! サイエンスinオキナワ2013: 起業のための研究能力**

在沖米国総領事館では、沖縄科学技術大学院大学(OIST)との共催、沖縄県、沖縄県教育委員会、沖縄県高等学校理科教育研究協議会の後援を得て、県内の高校生を対象にした科学フェア「スコア! サイエンスinオキナワ2013: 起業のための研究能力」を平成25年3月16日(土)午前9時半からOISTの講堂で開催することになりました。

このイベントは県内の高校生を対象に、日頃の研究や開発の成果をいかに日常生活の中に役立てていくかという起業家精神を培うこと目的とした、今までにない取り組みです。県内高校生への体験型理科教育を発展させることと起業家精神に関心を持ってもらうことを意図するとともに英語立県沖縄への取組みを支援するものです。ひいては、沖縄県の自立経済発展に貢献する人材の育成に寄与するものだと考えております。

昨年、12月からOISTや沖縄県教育委員会のホームページでこのイベントの告知したところ、県立高校8校(辺土名、北部農林、美来工科、中部農林、球陽、宜野湾、開邦、那覇国際)と国立沖縄工業高等専門学校(3年次まで)、クバサキ・ハイスクールを含め10校から14チームのエントリーがあり、参加者も発表内容もバラエティーに富んだ内容となっています。また、このイベントに参加する高校生の発表、研究成果を評価して頂く審査団にはOISTや米国総領事館関係者、県内の企業経営者、教育関係者が審査員として参加します。日英の同時通訳でイベントを進行する国際色あふれるイベントとなっています。

沖縄県の未来を担う高校生らが、どのような研究を行い、どのように地域社会に貢献していくのか、そして自らの起業プランを10分間で発表します。その熱い思いを皆で応援しましょう。皆様のご来場を大歓迎いたします。詳細は<https://groups.oist.jp/ja/score>をご参照下さい。

記

日 時 : 平成25年3月16日 (土) 午前9時30分 (午前9時 開場)  
場 所 : 沖縄科学技術大学院大学 講堂  
沖縄県国頭郡恩納村字谷茶1919-1 (<http://www.oist.jp>)

## 「ありがとう」



## 領事館情報

- YouTubeビデオ: 「総領事公邸へようこそ」  
<http://youtu.be/RlfnMBXGwFE>

- ジャーナリストによる講演会  
「ハリケーン・カトリーナに学ぶ災害復興」  
3月4日(月)18:00より 琉球新報ホール

- 監督舞台挨拶つき沖縄プレミア上映会  
「夢に生きる:テイラー・アンダーソン、津波の犠牲となった米国人英語教師」  
3月5日(火)17:00より 名護市立中央図書館



- 琉大21世紀フォーラム  
「女性と科学・技術・イノベーションの扉を開く」  
3月14日(木)16:30より 琉球大学法文学部新棟

- 英語で朝活  
毎月第2、第4火曜日にスターバックス浦添パークレーズコート店にて午前7時半より1時間、英会話を楽しみませんか？英語を練習したい方はぜひご参加下さい。

[1ページ目に戻る](#)



## 在沖縄米国総領事館

〒901-2104 沖縄県浦添市当山2-1-1  
<http://japanese.naha.usconsulate.gov/>

在沖米国総領事館

@USConsulateNaha